

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2025 年 1月 25日

事業所名 放課後等デイサービストレインキッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用人数に応じて、環境設定を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		今後、通路やトイレに手すり等の設置も検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個々で目標を設定したり、朝礼やミーティングで確認したりして共有の場を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者から受けた意見について、スタッフで協議し、改善策を考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部の研修講師に現状の相談をし、意見をいただいている。	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		児発管による支援の研修を行ったり、研修動画を視聴したりして、資質の向上に努めている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		必要に応じて、保護者様に施設での様子の見学をしてもらう機会を作っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々のミーティングや支援会議等で検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		支援会議や日々の終礼時の情報共有等を通してプログラムに幅が広がるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇中は、SSTで取り組んだ内容について実践できる場を設定している。(コミュニケーションゲームや自由時間)	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		心理士による個別SST、小集団SSTを組み合わせて日々の支援を計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		業務に漏れが出ないように、役割分担をしてから受け入れをしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ミーティングの時間を作り、翌日の支援に繋げるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		支援会議や事例検討の時間を通して、計画の見直し・修正について検討している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		担当者会議を開催したり、メールや電話、Zoomでの共有も行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談支援事業所を通してのみしか共有できていないため、必要に応じて連携していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		対象学年が小学3年生までのため、卒業後の進路について情報提供は行っていない。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		月に1回フットサル交流会を開催し、外部交流する場を作っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		毎月参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々、支援内容や個別支援計画の目標に対する評価を行い、保護者に配属している。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		子育てコーチング研修(年3回)を開催したり、支援内容を観察する場を提供したりしている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて、電話や面談、担当者会議開催を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者向けの子育てコーチング研修や交流会を開催し、保護者同士が交流・連携する場を設定している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		LINEや日々のサービス提供記録、送迎フィードバックの時間を中心に情報伝達をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年3回(地震・水害・火災)避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			